

人と場へのFM投資価値研究部会

人間にフォーカスした「未来オフィス」の在り方

部会長 **岡田 大士郎**
おかだ だいしろう

株式会社HLD Lab 代表取締役



はじめに

新型コロナウイルスが人類に試練を与え続け1年以上となる。この試練は私たちに、「命」の大切さ、人間の「尊厳」、そして、人類レベルでの持続可能なウェルバランス・ソサエティ（幸福社会）のあり方を考える貴重な時間となっている。

「テレワーク」とバーチャルワーキング

昨年、4月7日に続き、2度目の「緊急事態宣言」が発出された。出社制限が課せられ中、多くの方々が、Zoomを始めとした便利ツールの使いこなしにより、さまざまなバリエーションでのWeb仕事術を経験している。

クリエイティブ空間創造プロジェクトのワークショップを「Zoom × コミュニケーション・テックツール」で行ってみると、リアルワークショップ以上のオンラインワークショップを運用することができることや、さまざまなツールの組み合わせと、利用の工夫により、リアルなイベントや打ち合わせに匹敵するバーチャルワークが可能となってきた。

オフィス・トランスフォーメーション

リアルMeetupが制限された中で、バーチャルリモートワークスタイルが急速に進化してゆく先には、「オフィスの役割とは？」とのテーマがリアルにクローズアップされている。

そもそも「オフィス」とは、多くは「仕事場」といった社会常識があり、組織に雇用されている人たちは、「オフィス」に「出社」し、労働法規に定められた規則に則り「就労」（チームメンバーとの協労等）する

ことにより「価値創造活動」を行う場所、との暗黙的合意形成ができてきている社会といえる。

しかし、ポストコロナに向けて、オフィスの機能や役割がトランスフォームしてゆくことは必然であり、デジタルトランスフォーメーション（DX）の流れの中で、「オフィス」は先進的な科学技術基盤に支えられた情報空間の「場」に変質してゆくことが予想される。

未来のオフィス

リアルオフィス空間の価値は、生身の人間が集い、お互いの息遣いを感じ、ノンバーバルコミュニケーションができる「気（活気、熱気、意気、才気、士気）」や「オーラ」を交信しながら、会える喜びと安心感、そして、「人間愛」を直接感じられる時空間でのリアルタイム交流の価値である。

新たな価値創造やイノベーション誘発に必要なものは「人間の知恵」であり、知恵を相互に共振させて英知を共創してゆく「場」が必要である。

「知恵の場」を触発させる「触媒」は、人間相互の熱意を感じられる「リアル空間」であるオフィスと「バーチャルナレッジ空間」の融合が不可欠といえる。どれだけバーチャルテックによる情報交流ができたとしても、直接会ってお互いの「想い」や「熱意」そして「気」を交流させるリアルオフィスはなくてはならない存在である。

ナレッジワーキング領域での「未来オフィス」の価値は、「人間がリアルに集える場」としての価値であり、フリーアドレスから、ABWを経て、CBW（Creative Based Work-style）に適合した「リアルオフィス」の「場」づくりが重要となるであろう。◀